

平成30年度「瀬戸内タウンミーティング」で寄せられたご意見への対応状況

担当課・室	会場	ご意見の要旨	市長の回答	対応状況
山鳥毛関係各課	長船	<p>・こういった会(タウンミーティング)は、一般の方に山鳥毛の購入に関する理解を得る場になると思うが、市の職員間の山鳥毛購入に関する共通理解も大切ではないか。</p>	<p>・職員にこの取り組みの大切さ、また市の重要施策などを理解してもらう機会が持っていない。この取り組みを始動させるスケジュールをしっかりと定めた上で、そういう機会を設けるべきだと考えている。</p>	<p>・職員のこの事業に対する共通理解への周知でございますが、事業計画については、議会等で説明いたしました国宝「山鳥毛」購入活用に係る基本方針を核として、資金調達の方法や施設や環境の整備、購入後の活用等についての具体策について、刀の見識者、市民の社会教育団体等、学校関係の教育関係者など部局の枠を越えたプロジェクト委員会を立ち上げて基本計画を策定しているところで。 また、全庁あげて取り組む職員の認識を高める「山鳥毛里帰りプロジェクト研修会」や「山鳥毛シンポジウム」の実施なども盛り込んでおります。</p>
総務学務課	邑久	<p>・ハンセン病の世界遺産登録の話について、市長、愛生園・光明園の自治会の役員の方、資料館の方、NPOの事務局の方などの働きは見えるが、市民の方々の参加がなかなか見えてこない。盛り上がりが欠けているのではないか。子どもたちにハンセン病学習をどう普及していくか、大事になってくる。市内のすべての小学校・中学校で取り組んでいただきたい。</p>	<p>・まずは市内の子どもたちからというのはおっしゃる通り。限られた予算や時間の中で、それぞれの学校で工夫しながら取り組んでいただいていると思う。さらに我々の方で例えば、NPOからの支援などいろいろな方策が考えられる。いただいたご意見もふまえて、十分に取り組んでいただけるように教育委員会、NPOと連携していきたいと考えている。</p>	<p>・市内の全小・中学校において、総合的な学習の時間等で、ハンセン病問題に関して学年を決めて学習をしています。具体的には、ハンセン病に関する正しい知識と理解や回復者の方々の思いや島(療養所)の歴史等を学校や現地で学習しているところです。これらの学習を通してハンセン病問題から人権尊重の重要性に気づき、自分の生き方について考えを深めているところです。</p>
危機管理課	牛窓	<p>・防災行政無線の放送がさっぱり聞こえない。ある自治体では、携帯ラジオを自治体が負担して、全世帯に配っている。研究して、大事なことなので考えてもらいたい。</p>	<p>・それぞれのご家庭に個別の受信機をつけていただくことを進めるか、スマートフォンなどを使って新しいデータ通信を考えたか、そういう方向しかないかなと考えている。いろんなやり方を比較して、どのやり方が瀬戸内市に合っているか、検討している状況。何とか改善できるように取り組んでいきたい。 ・テレビのNHKのDボタンも使っていただきたい。防災行政無線と同じ情報が流れている。</p>	<p>・消防庁の防災無線専門家からのアドバイスを受け、瀬戸内市に合った情報伝達システムを検討しているところです。また、NHKのDボタン操作による気象情報など、防災情報を積極的に取得していただくよう引き続き市民への周知を図っていきます。</p>